



第46回九州オープン選手権競技

競技報告 (2016/ 8. 4 - 7)

写真と記事 : M. Kikutake

3人のプレーオフ制して

小田龍一 (Misumi) がうれしい初優勝

ベストアマには上村竜太 (チェリー鹿児島シーサイド)

8月4日から4日間、宮崎市の宮崎レイクサイドゴルフ倶楽部 (7042〒、パー72) で行われ、通算16アンダー、272で並んだ3人によるプレーオフの結果、3ホール目でプロ16年目の39歳、小田龍一 (Misumi) が他の2人を下し、初優勝、優勝賞金300万円と、特別協賛「えんホールディングス」の副賞200万円の計500万円を獲得した。

アマチュアは最終日、67で回った神村学園高1年、15歳の上村竜太 (チェリー鹿児島シーサイド) が通算8アンダー、280とし、19位タイで初めてのベストアマを獲得した。

セカンドアマは4打差の30位タイ、長崎日大高出、大阪学院大1年の増田裕太郎 (大博多)、サードアマは通算3アンダー、34位タイの福岡・片江中3年、出利葉太郎 (筑紫ヶ丘) と今年の九州学生を制した長崎国際大1年、安部寛章 (ザ・クラシック、福岡第一高出) の2人だった。



ラシック、福岡第一高出) の2人だった。

16 アンダー、272 3ホール目で決着

プレーオフは2006年 (玉名CC) 以来10年ぶり。18番 (パー5) で小田龍と鈴木優大 (えんホールディングス、26歳)、櫻井省吾 (イノベーションゴルフアカデミー、29歳) 3人によって行われ、2ホール目で櫻井が脱落。3ホール目、2打でグリーンをとらえた小田がバーディーを奪い、3オンでパーの鈴木に競り勝った。

初日、コースレコードとなる9アンダー63をマークして単独トップに立った小田龍は、2日目71で1打スコアを伸ばしたものの、この日67で回った永野竜太郎 (フリー、28歳) に首位を奪われた。2打差の2位タイで迎えた3日目、小田龍は5アンダーの67を出し、2位に2打差をつける通算15アンダーとして再び単独首位へ。最終日、1つしかスコアを伸ばせなかった小田龍に対し、2位タイの

櫻井が69、3打差5位タイの鈴木が68と追いつけて小田龍に並び、プレーオフにもつれこんでいた。

プレーオフに敗れた鈴木、櫻井が2位タイで、1打差、15アンダーの4位タイに永野、藤島征次（フリー、31歳）、前々回優勝者の北村晃一（ミッションバレー、31歳）、前回優勝の和田章太郎（フリー、20歳）の4人が並んだ。

なお、優勝者に与えられる日本オープン選手権、KBCオーガスタの出場権は既に小田龍が持っているため、プレーオフに敗れた2人のうち、最終日成績上位の鈴木が繰り上がった。

女子プロ2人は予選落ち

ツアーシード勢が参加できるように、昨年までの6月から、ツアー日程が入っていない8月に開催時期を変更しての真夏の選手権。大会には144人（プロ113人、アマ31人）が参加した。

試合は初日、小田龍の爆発的9アンダーのほか、このところツアー初優勝や、ツアー外のネスレ招待日本プロマッチプレー選手権レクスス杯でその小田龍を下して国内最高額の優勝賞金1億円を手にしたばかりの時松隆光（筑紫ヶ丘、22歳）が1打差の2位と話題十分で、なおかつ56人がアンダーパーをマークする大混戦のスタートを切った。

2日目は、熊本地震で甚大な被害を受けた益城町出身の永野が7バーディー（2ボギー）で3位から首位に浮上。小田龍も2打差の2位で再浮上を狙えば、さらに1打差に時松や鈴木、小浦和也（フリー、23歳）ら若手が控えた。この日で予選が終わり、イーブンパーまでの上位60人が後半の決勝ラウンドに進出したが、この時点でもなおアンダーパーが45人と激戦模様。今大会の目玉の1つ、4月のトヨタカップでベストアマになり出場権を得た18歳の但馬友（大分）、開催コース推薦の20歳、山内日菜子（宮崎レイクサイド）の2人の女子が出場。2人はともに大会直前のプロテストに合格して“女子プロ”としての参加で注目されたが、ともに力及ばず、但馬が3オーバーの77位タイ、山内が4オーバー、88位タイでの予選落ちだった。

バーディー合戦 大混戦の4日間

3日目は雷雨で3時間の中断も

3日目は雷雨でスタートができず、3時間遅れての試合開始。蒸し暑さの中での耐久レースとなったが、永野が74で後退。67の小田龍が首位を奪還したほか、2打差の2位タイに和田、北村、櫻井の3人、さらに1打差で小浦、鈴木がつけ、予断を許さない展開になった。なお、この日は嘉数光倫（エナジック）が4番（105ヤード）でホールインワンを記録した。

迎えた最終日。小田はいきなりボギー2連発のあと、最終盤にもOBのダブルボギーをたたきなど71と1つスコアを伸ばしただけ。4アンダーの鈴木と、3アンダーの櫻井が小田龍をとらえたものの、プレーオフでは中堅のここぞの強みを発揮して、小田龍がタイトルをもぎ取った格好だった。



アマチュアの上村はアマトップに行く増田に2打差で迎えた最終日、6バーディー、1ボギーの67をマーク。4バーディー、5ボギーとスコアを伸ばせなかった増田を逆転、初のベストアマに輝いた。



“欲しかったタイトル、を勝ち取った小田龍一 プレーオフで若手を下しての九州オープン初優勝

2位に2打差をつけて迎えた最終日、いきなりのボギー連発で、おまけに最終盤ではOBを打って一時は首位を譲り渡した小田龍一。最終18番では首位に1打のビハインド。2オンして、入れれば勝ちという場面だったが、「ライのことしか考えなかった」というパットはカップの縁。プレーオフにもつれ込んだ。



そのプレーオフは2ホール目、残り200ヤードのアプローチが、グリーンを取り囲む池の縁の枕木に当たってグリーン方向へ、命拾いした。そして、櫻井が脱落した後の3ホール目の鈴木との対戦では、フェアウエーの中央からピン左9メートルに2オン。アプローチに失敗した鈴木がパーで涙をのんだ。

本戦では3日目にハーフ29をマークするかと思えば、最終日はOBも飛び出すなどバタバタして逃げ切れない。プレーオフは幸運にも後押しされたが、過去、2戦2勝。そんな不敗が自信にもなったのか、最後は落ち着いたプレーで若者を下した。

小田は表彰式で、「一番取りたかったタイトル。うれしい優勝」と言った。鹿児島は種子島の出身。09年の日本オープンの覇者であり、それでいて、地元の九州

オープンには不思議と縁がなかった。13年は予選落ち、14年は23位タイと振るわなかった。過去の九州出身のプロたちが、ローカルの大会とはいえ、地元のこのタイトルは何としてでも欲しい、と狙ってきた大会でもあるが、それがやっと小田龍一も実現できて、「優勝はやっぱ（気持ち）いい。今年はあと1つでも2つでも優勝したい」と満面に笑みを浮かべ、前向きな言葉が飛び出した。

「悔しい…」

〇…プレーオフに敗れた2人は「悔しい」と口をそろえた。2014年にプロテストを2回目に合格。プロ3年目の鈴木は、新たに「えんホールディングス」の所属となり、「女子（福田真未）は頑張っているのに、あかん」。プロ5年目の櫻井も「地元（宮崎日大高卒）の声援が多かったから、ぜひ優勝したかった。日本オープンに行きたかった」と唇をかんだ。

「パットがうまくいきました」

通算8アンダーと見事なスコアで初めてのベストアマに輝いた上村竜太は、逆転でのタイトルに、「アプローチショットがちょっと不安定だったが、4日間ともパットが良くて、それでカバーした感じ。パットがいいと、ショットもよくなってきて、（最終日の逆転にも）つながった」と振り返った。

中学3年の昨年は南日本選手権で中学生として初めて優勝。日韓友好親善大会の団体戦にも出場し、優勝している。今年は高校1年生ながら、1週間前の九州ジュニア15～17歳の部で6位タイになり、順調な成長ぶりで、「初めて日本ジュニアにも行けます。楽しみです」と笑顔で語ってくれた。